

第2回東海市3R活動地域推進員会議（報告）

とき 令和7年（2025年）2月14日（金）

午後6時30分～

ところ 東海市勤労センター 小会議室

1 出席者

(1) 推進員（9人）

緑陽コミュニティ 早川 松之様

名和コミュニティ 永田 康和様

渡内コミュニティ 山田 涼子様

船島コミュニティ 小笠原 功様

大田コミュニティ 久野 優様

横須賀コミュニティ 野村 義友様

加木屋コミュニティ **花井** 幸也様

三ツ池コミュニティ 西川 一隆様

加木屋南コミュニティ 加古 敦久様

(2) 事務局（リサイクル推進課）

山田課長、小島統括主任、伊藤主任、二宮主任

2 欠席者

平洲コミュニティ 浅井 義博様

明倫コミュニティ 増田 了介様

富木島ふれあいコミュニティ 成瀬 敏彰様

3 傍聴者

0人

4 会議録

(1) あいさつ

(リサイクル推進課長よりあいさつ)

(2) 議題

ア 地域で実践された 3 R 活動等の報告について

(資料 1 に基づき緑陽コミュニティ早川様から時計回りに説明)

【早川委員】

取り組みとしてはリサイクル推進課からもらったリチウムイオン電池の啓発ポスターを各町内会の掲示板、千鳥防災センターにある乾電池回収ボックスがあるため、そちらに掲示しています。

一応 3 月いっぱいまでは町内会の掲示板に貼っていただくように話をしており、千鳥防災センターは都度判断して、今後もとりあえず継続して掲示予定です。

ごみ分別について、各イベントで可燃と P E T を分別した。

8 月と 1 月のイベントは地域全体で大きく、キッチンカーが入ったため分別方法の見直しが必要であり、業者さんにもお願いしながら、業者さんに持って帰ってもらう等の話し合いが必要なのが課題だなと思いました。

【永田委員】

6 月にももらったポスターを各自治会に配付して掲示してもらった。

あと、各自治会で集団回収をしてもらった。

集団回収時に、「衣類等を紙袋で出したい、必ず十字に縛らなければいけないのか」というお声をいただいた。市からもらった資料に十字に縛ると書いてあったので説明をし、一応納得はしてもらいましたが、今後の検討課題として、考えてもらえたらと思っています。

【事務局】

この件の回答については、あとで説明します。

【山田委員】

夏と秋のふれあいまつりで力を入れたのが、缶ビールを綺麗に洗ってから資源に出すことと、集めたごみがカラスに荒らされないようにブルーシートをしっかりと被せたりしました。一個人としてもごみについて興味を持ったため、勉強にもなったし、今後も続けられたらと思っています。

【小笠原委員】

チラシのA3版はパウチしてもらって掲示板に貼った。チラシも各自治会に配付した。

夏まつりとふれあい広場は大きめの行事で、キッチンカーが入ったため、可燃ごみが増えてしまった。

【久野委員】

掲示板に今でもポスターを貼っていますが、定期的に風で飛んでいってしまうことがあるため、年1回くらいは取替えをした方がよいと思う。

イベント時のごみ分別ですが、夏まつりは町内会とバザーの実行委員が最後に全部片づけ、運動会は学校関係者と父兄で実施し、徹底できていると思います。

市民館・公民館まつりは、市民館はほとんどごみが出ず、一般の方は基本持ち帰ってもらった。公民館はごみが出たが、職員がごみを回収したため、分別ができなかったことはないと思う。

一つ問題は、クリーンサンデーでごみ袋をもらったが、ただの透明袋だったため、分別しづらかった。去年はごみ指定袋があったので、それを使えばみなさんも各々分別しながら入れられると思うので、そういうのは徹底した方がよいと思う。

（後日、生活環境課に確認をしたところ、クリーンサンデーのごみは感染症対策等で、拾ったものは全てごみ扱いであり、資源化しないため、中身が確認できる透明袋で可燃・不燃ごみのみの分別で西知多クリーンセンターへ持込をするとのこと）

【加古委員】

3種類の啓発チラシを回覧した。また、各種イベントで分別を行った。

【西川委員】

リサイクル推進課からもらったチラシを内容ごとに自分で考え、リチウムイオン電池は全員に配付し、食品ロスは子どもの多そうな子ども会にも追加で回覧したりしました。

リユースについて加木屋のお祭りがだんだん無くなってしまっていて、自治会倉庫の物が減らないという状況があり、運よく、近くの保育園や幼稚園が法被をもらってくれるということで、80枚ほどリユースしました。それでも残った100枚程はリサイクルに回ってしまった。他の自治会さんも同じようなところがあるようで、“うちもやればよかった”という声が聞こえてきたが、幼稚園等もこれ以上いらないと言っていたので、引き取り手がいない状況です。

サマーフェスティバル（盆踊り）も高齢化で来ない方が多くなってきて、浴衣や草履が余ってきたので、リサイクルに回る方が多いですが、希望者にはリユースとして譲りました。

子ども会主催の資源回収について現場を確認したが、民間回収ではびんの回収がなく、リサイクルセンターも遠方のためか、びん回収量が多かった。

あと、他のコミュニティからも話が出ていたが、夏・秋まつりではキッチンカーが入り、昔は自分たちで実施していたのでごみも少なかったが、キッチンカーは売上がいいため、その分ごみが増えてしまいます。よい業者さんだとキッチンカーの前に自前のごみ袋を置いて持って帰ってくれる。

そんな業者さんばかりではないため、自治会でもごみ箱を設置しており、極力白い可燃用袋で捨てることのできる容器等を利用しようとしているが、キッチンカーだとどうしてもプラごみが出てしまう。イベントが盛り上がるのは良いが課題があるため、来年度の方に引継ぎをして、見直しをしようと思っている。

【花井委員】

行事の中でごみと資源を分けているが、缶等をゆすがなければいけないため、完全には分別できていない気がする。

フードドライブに力を入れている団体さんがいるので、実施しました。

また、掲示板にポスターを掲示したのと、子ども会が集団回収を行いました。

行事を実施すると大量のごみが出るので、根本的にごみが出ないような方法で行事を実施していけたらと思っている。

【野村委員】

昔からイベント時にはごみの分別を実施していた。

可燃、不燃、PET、缶等で分けているが、あまりにもごみが多い場合は軽トラ等で直接西知多クリーンセンターに持って行っている。

啓発用チラシ等は3つの連合会長と1つの自治会長に枚数等を確認して、その分を配布した。

【事務局】

先ほどの名和コミュニティから御提案いただきました、布類を十字で縛る以外の出し方についてですが、現在、複数の業者に確認をとっています。資源化する上で、支障がなければ、出し方が広がった方がよいので、検討していきたいと思っています。

もし、変更することが決まったら、広報等でみなさまにお知らせします。

ここままで、市に対しての意見や、他のコミュニティのやり方で聞きたいこと等がありましたら、ご発言ください。

【野村委員】

行事のごみ回収では袋に分別名称を付けて実施していますが、町内会長に聞いたら観光協会で段ボールと袋を無料で貸してくれると聞いたが、本当か。

（会議後、観光協会に確認したら、基本的に花火大会用の段ボールで、横須賀と大田はおまつりの際の山車の関係で渡したことはあるが、一般的には貸し出し等を行っていないとのこと）

【事務局】

渡内コミュニティのアドバイザーさんからもらったという段ボールは観光協会のとは別物ですか？

【山田委員】

うちの丸いかごは洗浄した缶を水切りで入れるもので、箱は段ボールではなく、麻のような生地で、ビニール袋をそれにかけてごみを回収していた。夏まつりの際に市の指定袋は小さく使い勝手が悪く、かつ袋をテープで貼っていたが、袋はふにゃふにゃで自立しないし、すぐに取りれてしまうので、秋まつりには対策を図った。

キッチンカーが来ると可燃ごみが多くなる。8箇所くらいに設置していたが、すぐにいっぱいになってしまっただけで袋交換をするために走り回っていた。

【小笠原委員】

基本的に、ごみ箱には人が付いていないと、違う分別のものが入り込んでしまう。

【山田委員】

そのやり方もやっていたが、基本的に人が足りなかった。

【事務局】

三ツ池コミュニティがさきほどハッピー等を処理したとありましたが、リサイクルセンターに持ってきてもらえば、資源化します。

また、他にも捨てたいけど困っているものがあれば、相談してもらえれば対応します。

【西川委員】

資源化はしていました。フリマアプリに出すかという案もあったが。

【事務局】

もっと気軽にリユースできる場所があればよいですね。

【西川委員】

3Rという言葉が浸透していないように思える。リユースとリデュースを知っている人が少ないと思う。

話は少し逸れますが花火大会ではどのようにごみを分別しているか知っていますか？

【事務局】

段ボールのごみ箱にビニール袋をかけたものを数個用意して、人を付けて回収をしているが、来客数が多いためすぐにごみ袋が一杯になってしまう。しかし、すぐに袋を替えないと、そこらへんにごみを置かれてしまい、せっかく分別が意味を成さなくなってしまうと去年話を聞いたことがあります。

【委員】

どれだけの箇所数があるのかわかりますか？

【事務局】

範囲が広いため私たちは把握していない。アピタの駐車場や公園内にも何か所があるし、屋台が無い場所にもたくさんある。出てくるごみはほとんど屋台のごみだと思う。屋台のごみは事業者が持って帰っておらず、事業系ごみとして産業廃棄物として捨てている。

少し話が変わりますが、先ほど三ツ池コミュニティが食品ロスのチラシを、子ども会にも回覧していただいたとありましたが、ごみの分別については小さい頃からの環境教育が大事だと思うのですが、環境教育を実施するにあたりどういった工夫があるかを子ども会から何か聞いていますか？

【委員】

聞いてはいない。親の教育次第か。

【事務局】

清掃工場があったときは、校外学習の一環で毎年小学校4年生が来て、うちの職員がリサイクル等についての説明をして、帰った後に“今日はどういうことを学んだよ”と親御さんに話してくれたりというエピソードを、お礼の手紙等で知り、やはり環境教育は大事であると思いました。

また、今後そういったお声がありましたら情報提供をお願いします。

本日の御報告の内容で実施できそうなことがあったら新役員さんに情報共有をし、来年度以降のコミュニティ内での3R活動に御活用していただけたらと存じます。

イ 来年度の3R啓発チラシについて

(事務局から資料2に沿って説明)

【委員】

ボトル to ボトルについての説明がよく理解できなかった。

【事務局】

(チラシを配付。ペットボトルの提示)

ペットボトルを飲み切ります。いつも家庭ではキャップとラベルを剥がしてもらい、それはプラスチックへ。ペットボトルは軽く中をゆすいでもらって、ペットボトルの日にごみ集積場所に捨てて貰っているかと思います。

そのごみ集積場所でもらったペットボトルは私たちのリサイクルセンターに運ばれてきて、中間処理という形でこれを潰して圧縮して“ベール”という四角の形に成形して次のリサイクル工場に出荷されます。

次にそのリサイクル工場でペットボトルを細かく切り刻み、“フレーク”という状態の原材料を作ります。（フレークのサンプルを提示）

さらにこのフレークを熱処理すると“ペレット”という粒上の原材料に生まれ変わります。（ペレットのサンプルを提示）

今までは、このペレットを原材料に化学繊維の手袋や作業着とか、色々な別の商品に生まれ変わっていましたが、新しい水平リサイクル（ボトル to ボトル）というのは、このペレットから“プリフォーム”というペットボトルの赤ちゃんのような形に成形し（プリフォームのサンプルを提示）、ここに空気を入れて膨らますと、またペットボトルが出来上がります。

つまり、飲み終わったペットボトルが、また違うペットボトルに生まれ変わるということを何回も繰り返すことによって半永久的な原材料として使うことができます。

【委員】

ペットボトルの蓋を取った時に残るリングは、あれはどうなのでしょう。

工場でペットボトルと一緒に切り刻まれるのですが、水に浮かすと比重が違うため、リングや残ったラベルも完全にではないですが分けられます。

リングは分別する際に取れないと思いますので、残していただいて大丈夫ですが、不純物が多ければ多いほど、分かれにくいそうなので、簡単に取れるラベルは剥がしていただきたいです。

キャップについては、先ほど話していた圧縮する際に、蓋がしてあるとなかなか圧縮できないため、外していただきたいです。

【委員】

水平リサイクルしても一対一にはならないですね。

【事務局】

完全には一対一にはならないが、極めてバージン素材は少なくしてリサイクルできている。

【野村委員】

ペットボトルのキャップは公民館にも置いてあるが、集めると何万というお金になりますよね。福祉施設に渡しているのかな。

【事務局】

市内の福祉施設で不純物を取り除いて、次のリサイクラーに引き渡しをしていて最終的にプランターにリサイクルされている。

【委員】

この水平リサイクルをするにあたり、どれくらいの費用がかかっているのか。

【事務局】

細かい金額は把握していない。当然リサイクルするのにもお金はかかっているが、地球規模でこの活動はどれくらいのCO₂が削減されているか、バージン素材をどれだけ使わずできるかということに重きを置いている。

【委員】

町内会の資源回収ではペットボトルは資源として集めていないが、資源ごみとして集めようということでしょうか。

【事務局】

集団回収で契約している業者さんは“専ら物”とよばれている4品目しか回収できないことに法律上なっています。

ペットボトルを集団回収で回収するには収集運搬許可が必要となってくるため、地域の資源回収ではペットボトルは回収品目として考えていません。

今後も引き続き行政が主体となって回収していく。

【事務局】

先ほどの3つのチラシ内容はあくまでも候補なので、他によい内容があれば御提案ください。

【委員】

協定を結んだというリユースサイトは使われているのか。

【事務局】

正確な件数が記載されている資料が手持ちではありませんが、毎月結構な量の取引があります。(令和5年度実績 7, 299件)

【委員】

この前、テレビかインターネットである場所に持ち込んで、無料のものもあるし、お金がかかるものもあるそういうのを見たような気がする。

【事務局】

名古屋市で実店舗型は存在しています。本市もせっかく㈱ジモティーと協定を結んでいるので、名古屋市から情報を得ながら、進めていければと思います。

全体を通じて、リサイクル行政に向けて何かありましたらお願いします。

【委員】

集団回収において、昔は色んな所に回収場所がなかったため、1回の回収でかなりのお金が入ってきたが、今はやっても業者さんからもらえるのは缶の売り上げの一部だけで、あとは市からの報償金のみである。

うちはシニアクラブと子ども会さんと町内の役員さんの20人くらいで回収をやっており、補助金みたいなものを団体さんにあげているため、結局やると赤字になる。

20人も毎回来て、1回1万五千円から2万円しかないのに、これからも今まで通り続けていってもいいのか。他のところに回収する場所を作って、集めてもらった方が町内としては楽である。補助金単価をもう少し上げてくれるとかを検討してほしい。町内会を加入する人も減ってきて、町内会活動資金が年々減っていつていするため、止めた方がよいのではという意見も出てくる。

【事務局】

集団回収が始まった平成3年度から単価も当時のままです。先日も業者の方を集めて意見をいただいたり、また今月の28日、3月1日には団体の方を対象に説明会を実施します。その中で団体さん側からの意見もいただいて、今後の集団回収事業をどのようにやっていけばいいか協議をしている最中です。市として集団回収は資源回収のチャンネルの一つとして必要だと思っていますので、何とか続けるような形で協議していきますので、もうしばらくお時間をいただければと思います。

(3) その他

(事務局から資料3に沿って説明)

令和7年度の3R推進協議会委員への選出委員は輪番制により平洲コミュニティから選出することに決定。